稲枝地区公民館講座

佐和山城と石田三成

米原市柏原宿歴史館　谷口 徹

石田三成像部分（龍潭寺蔵）

■境目の城

佐和山の位置

・北に入江内湖、西に松原内湖が広がり、東の鈴鹿山脈が張り出す狭小な地帯に東山道の通る要衝の地

近江源氏佐々木一族

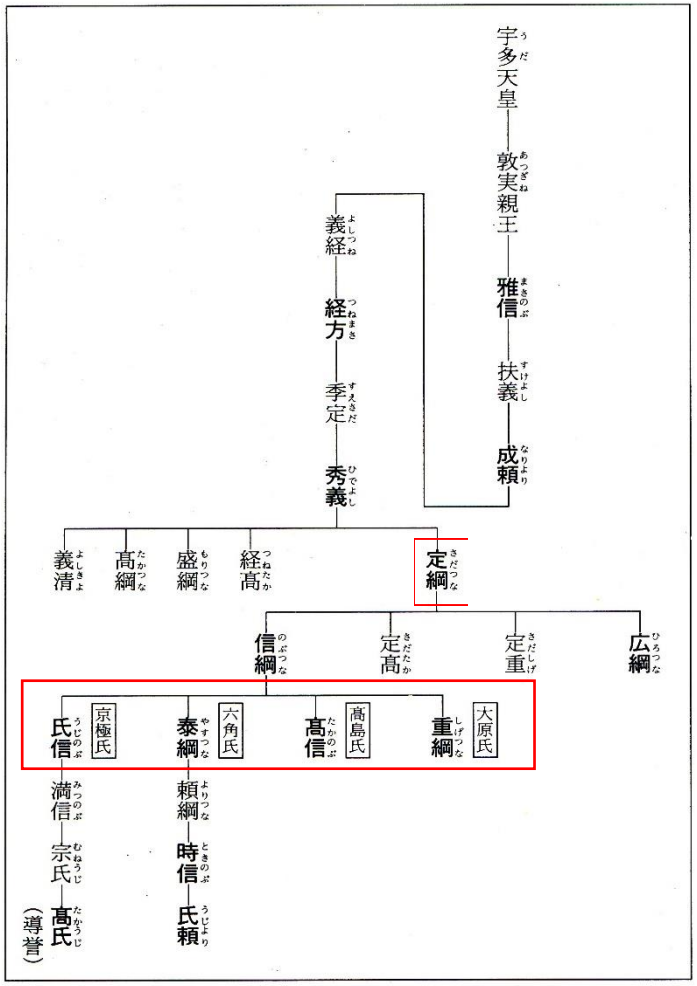
・鎌倉時代初期：近江を領した佐々木定綱（さだつな）の 6 男時綱（ときつな）が佐保と号し、佐和山付近に館を構える。・・佐和山／佐保山

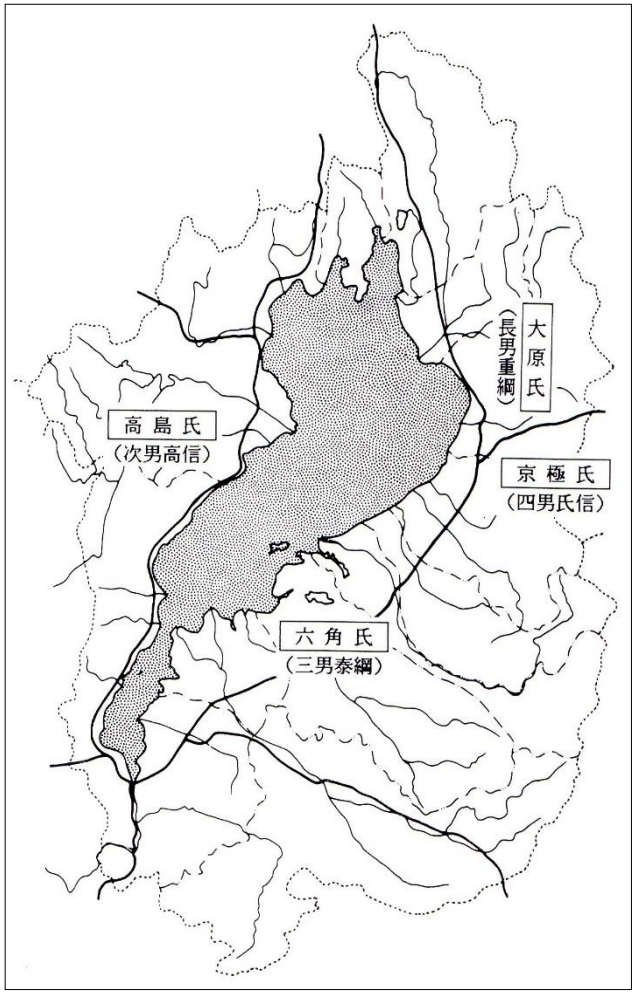
・鎌倉時代中期(1242)：定綱の 4 人の孫によって佐々木一族 4 家が近江を割拠　→六角氏と京極氏の対立。

六角氏：観音寺城

京極氏：上平寺城

両勢力の「境目の城」＝ 佐和山城


宇多天皇
敦実親王
雅信
扶義
成頼
義経
経方
季定
秀義
義清
高綱
盛綱
経高
定綱
信綱
定高
定重
広綱
氏信
京極氏
泰綱
六角氏
高信
高島氏
重綱
大原氏
満信
宗氏
高氏
（導誉）
頼綱
時信
氏頼


大原氏
（長男重綱）
高島氏
（次男高信）
京極氏
（四男氏信）
六角氏
（三男泰綱）

16 世紀 - 浅井氏の台頭

・京極氏の被官（家臣）から台頭した浅井氏が加わって三つ巴の佐和山城争奪戦

・永禄年間（1558～1570） - 浅井長政の勢力拡大 -

在地（坂田・犬上・愛知）の国人・土豪の動揺

六角氏配下から浅井氏配下へ

高野瀬氏・高宮氏・山崎氏など

城代から城主へ

・佐和山城は境目の軍事拠点として臨時に利用されたため、特定の城主を置かず、近くに本拠をもつ百々氏などが預かって城代を勤めてきた。

↓

・永禄 4 年(1561)、浅井長政の命により重臣の磯野員昌（いそのかずまさ）が佐和山入城。員昌は、長政から佐和山一帯の地域支配をまかされており、城代ではなく城主として 10 年間居城。佐和山城は、臨時の軍事拠点から、日常的な政治・経済の拠点となる新しい時代を迎えた。

■織田信長の近江侵攻

・永禄 11 年(1568) 、岐阜の織田信長が足利義昭（よしあき）を擁して近江に侵攻

浅井長政 ：妹お市を輿入れさせて手を結ぶ

六角承禎 ：箕作山城・観音寺城落城 → 甲賀へ敗走

・・・さしたる苦も無く近江を制圧し、岐阜から京までの道中を確保したかに見えた信長であったが、その反動は予想外に早くやってきた・・・

・足利義昭 : 信長の支援により将軍の地位についた義昭が、毛利・朝倉・武田・石山本願寺などと手を結んで信長に反攻 → 和議

・浅井長政 : 元亀元年(1570)4 月、信長、朝倉義景討伐のため越前に侵攻。浅井長政、反旗をひるがえす。朝倉と浅井に挟まれた信長、決死の脱出行。朽木越えで京に逃げ、その後、千種越えで岐阜に逃げ帰る。

・・・入京を急ぐあまり近江を軽んじ過ぎた信長は、改めて近江の統治をやりなおす・・・

■姉川の合戦

・元亀元年(1570) 6 月

織田信長・徳川家康 ←→ 浅井長政・朝倉義景（あさくらよしかげ）

↓敗走

（南）佐和山城・（北）小谷城

■佐和山籠城戦

・元亀元年(1570)6 月～翌年 2 月　約 8 ヶ月間

【佐和山籠城者】

城主：磯野員昌

今井氏・嶋氏など坂田郡の土豪たち

『嶋記録』

7 ヶ条の定書を交わして結束

■佐和山城主丹羽長秀（にわながひで）

信長が尾張城主だったころからの重臣

・元亀 2 年:1571～天正 10 年:1582）

城代 → 城主（5 万石）

・元亀 4 年(1573)8 月小谷城総攻撃

浅井久政・長政父子が自決

・・・近江に軍馬を進めて 5 年、信長はようやく近江の実質的な制圧を完成させた・・・

■織田信長の大船建造

・元亀 4 年(1573)5 月、丹羽長秀に命じて犬上山中の材木を松原に運ばせ、大船の建造に着手　　長さ 30 間(約 54m)、幅 7 間（13m)、櫓(ろ)100 挺　の巨船

↓

大軍を乗せて松原～坂本へ移動

↓

信長に抵抗して槙島城（宇治市）に立て籠もる足利義昭を攻める。

■安土城の築城

・天正 4 年(1576)1 月、織田信長、安土城の築城に着手。

総奉行：丹羽長秀。天正 7 年(1579) 完成。

■本能寺の変と佐和山城

・天正 10 年(1582)6 月、織田信長、本能寺で明智光秀に討たれる。

佐和山城主丹羽長秀、四国へ出陣のため大坂に居り、明智方に通じた若狭の武田元明が佐和山城を攻め落として荒木氏綱父子が佐和山城に入る。

明智方、山崎の戦いで羽柴秀吉・丹羽長秀らに敗れ、この報に接した荒木父子は丹波に逃れ、丹羽長秀は佐和山城に帰城する。

■堀秀政と佐和山城

・天正 10 年(1582)6 月：清州会議　羽柴秀吉と柴田勝家の対立

清須会議により堀秀政が佐和山城主(16 万石)となる。

・天正 11 年(1583)4 月：賤ヶ岳の合戦

堀秀政参戦

・天正 12 年(1584)　　：小牧長久手の戦い

堀秀政参戦

・天正 13 年(1585)6 月：堀秀政、四国の長曾我部(ちょうそかべ)攻めに出陣。

留守居を弟の多賀秀種(たがひでたね)に託し、越中(富山県)の佐々成政(さっさまりまさ)攻め準備のため佐和山城を修築する

・天正 13 年(1585)8 月：秀吉、佐々成政を攻略。秀吉、戦後の論功行賞を行う。

堀秀政：佐和山城　→　北庄城(福井県)18 万石

近江のほとんどが秀吉の直轄地となる。

■宿老堀尾吉晴(ほりおよしはる)と佐和山城

秀吉の甥の秀次：八幡山城 43 万石(直轄 20 万石＋宿老分 23 万石)

宿老（しゅくろう／若い秀次を支える武将たち）

- 堀尾吉晴：佐和山城 4 万石
- 山内一豊(やまのうちかずとよ)：長浜城 2 万石
- 中村一氏(なかむらかずうじ)：水口岡山城 6 万石
- 田中吉政(たなかよしまさ)：八幡山城留守居

■小田原の陣と堀尾吉晴の浜松移封

・天正 18 年(1590)7 月：秀吉、小田原の北条氏を滅ぼす。

秀吉、空いた北条氏の関東の所領へ東海の家康を入れ置き、空いた家康の所領へ近江の秀次とその宿老たちを入れ置く。

そして空いた近江の所領の検地（天正の近江一国検地）を実施。

近江		東海		関東
一国検地	→	秀次と宿老たち	→	家康

秀次：八幡山城 → 清須城

堀尾吉晴：佐和山城 → 浜松城 12 万石

山内一豊：長浜城 → 掛川城 5 万 1000 石

中村一氏：水口岡山城 → 駿府城 14 万石

田中吉政：八幡山上留守居→ 岡崎城 5 万 7400 石

■近江一国の太閤検地／石田三成の佐和山入城

・天正 19 年(1591)1 月～4 月 ：近江一国の太閤検地

・同年　　4 月 ：秀吉、領地分与

石田三成、犬上郡・神崎郡と美濃の蔵入地（秀吉が直接管轄する土地）4 万 5000 石を預かる**代官**として佐和山城に入城。三成の領地は美濃に所在。

・文禄 4 年(1595)8 月　　：石田三成、湖北 4 郡 19 万 4000 石を領する佐和山**城主**。

・文禄 5 年(1596)3 月 1 日　　：石田三成、領内に掟書を発布。

掟書：13 ヵ条　→　三成の蔵入地(直轄地の村)

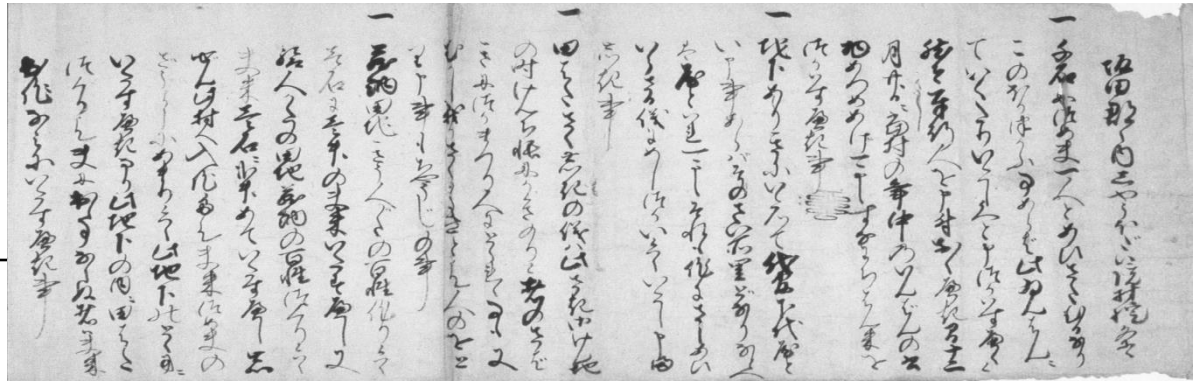
9 ヵ条　→　三成の給人地(家臣に与えた村)

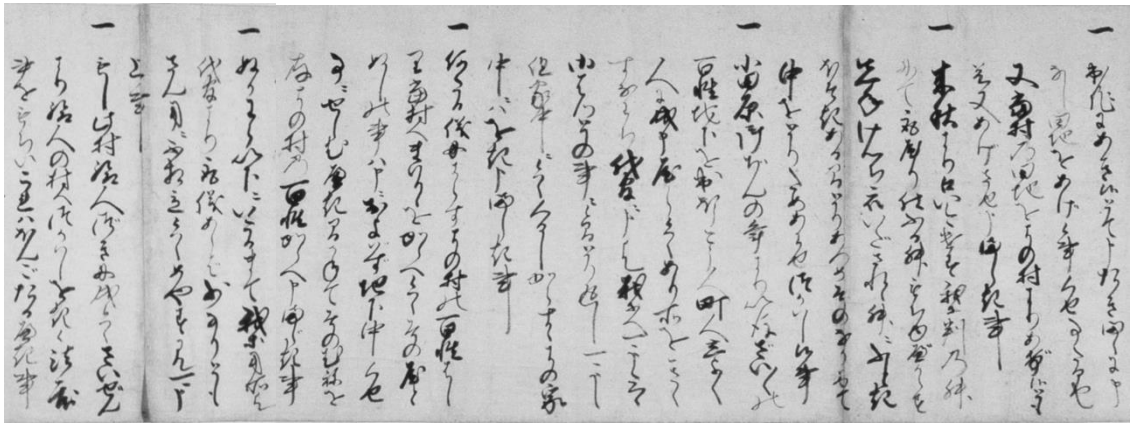
ともに冒頭の条項は人足の規定

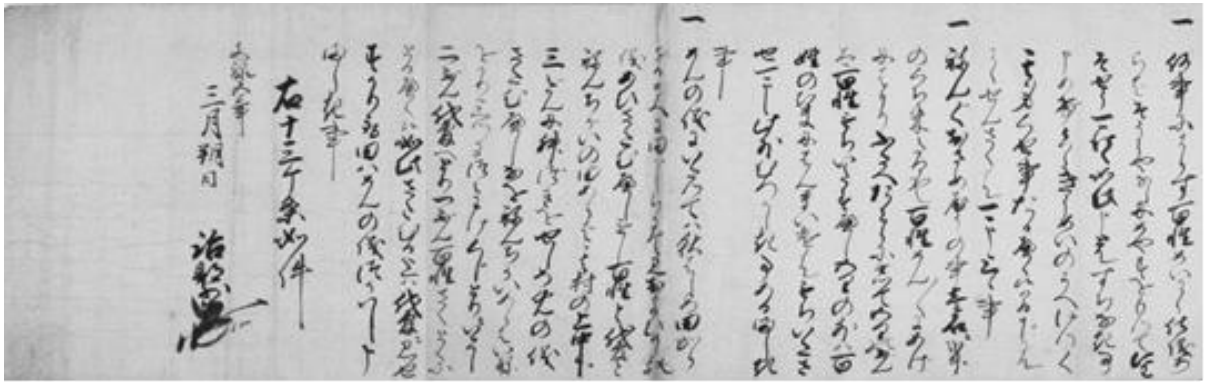
↓

佐和山城の大改修に着手

[佐和山惣構御普請]

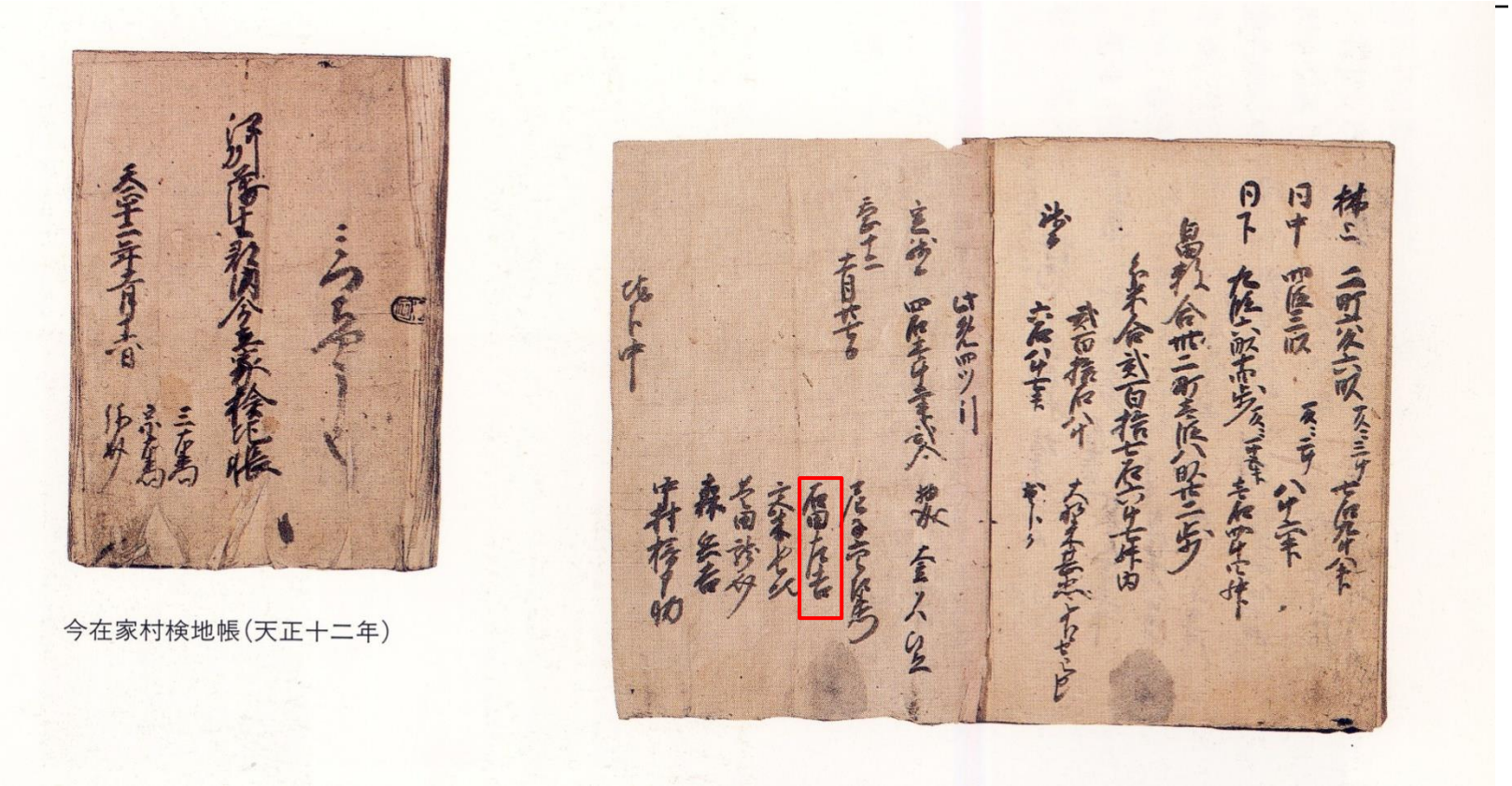






石田三成成菩提院村掟書十三ヶ条(成菩提院所蔵)

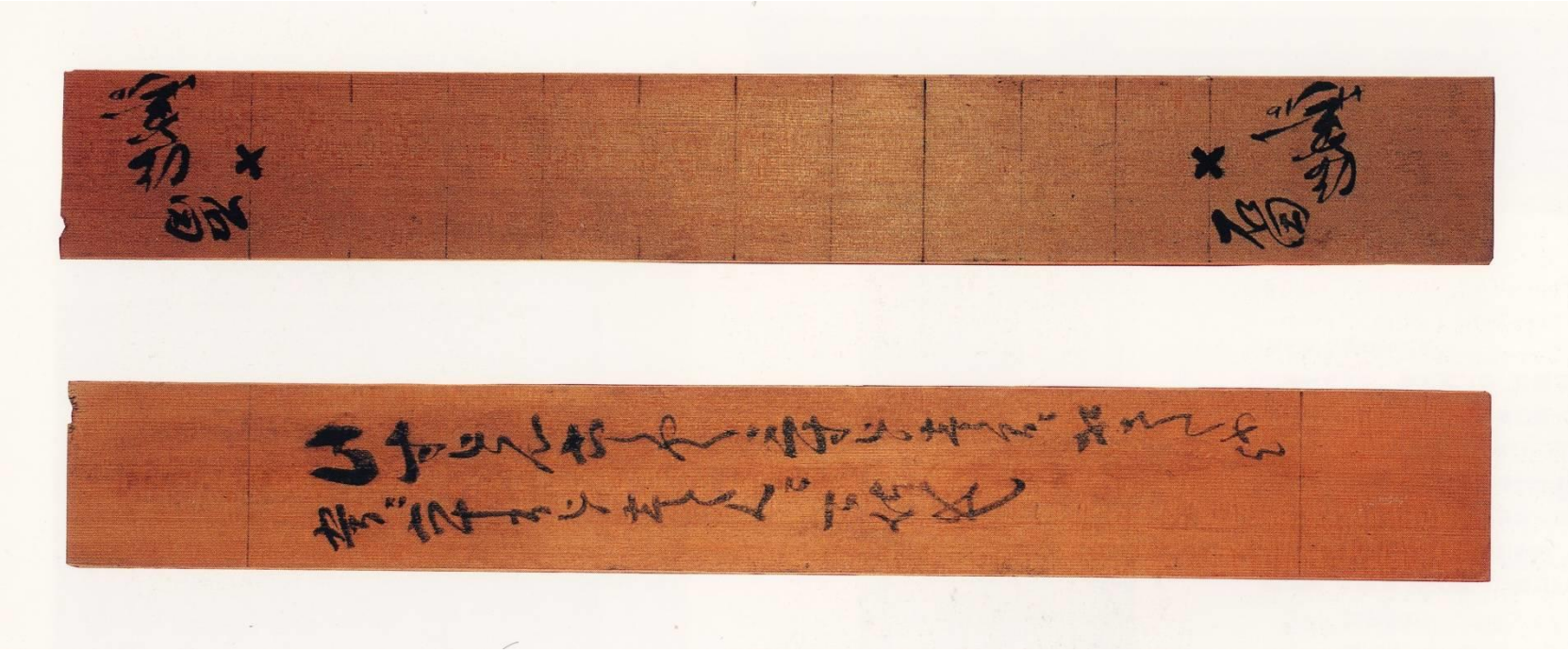
石田三成と太閤検地



今在家村検地帳（天正十二年）

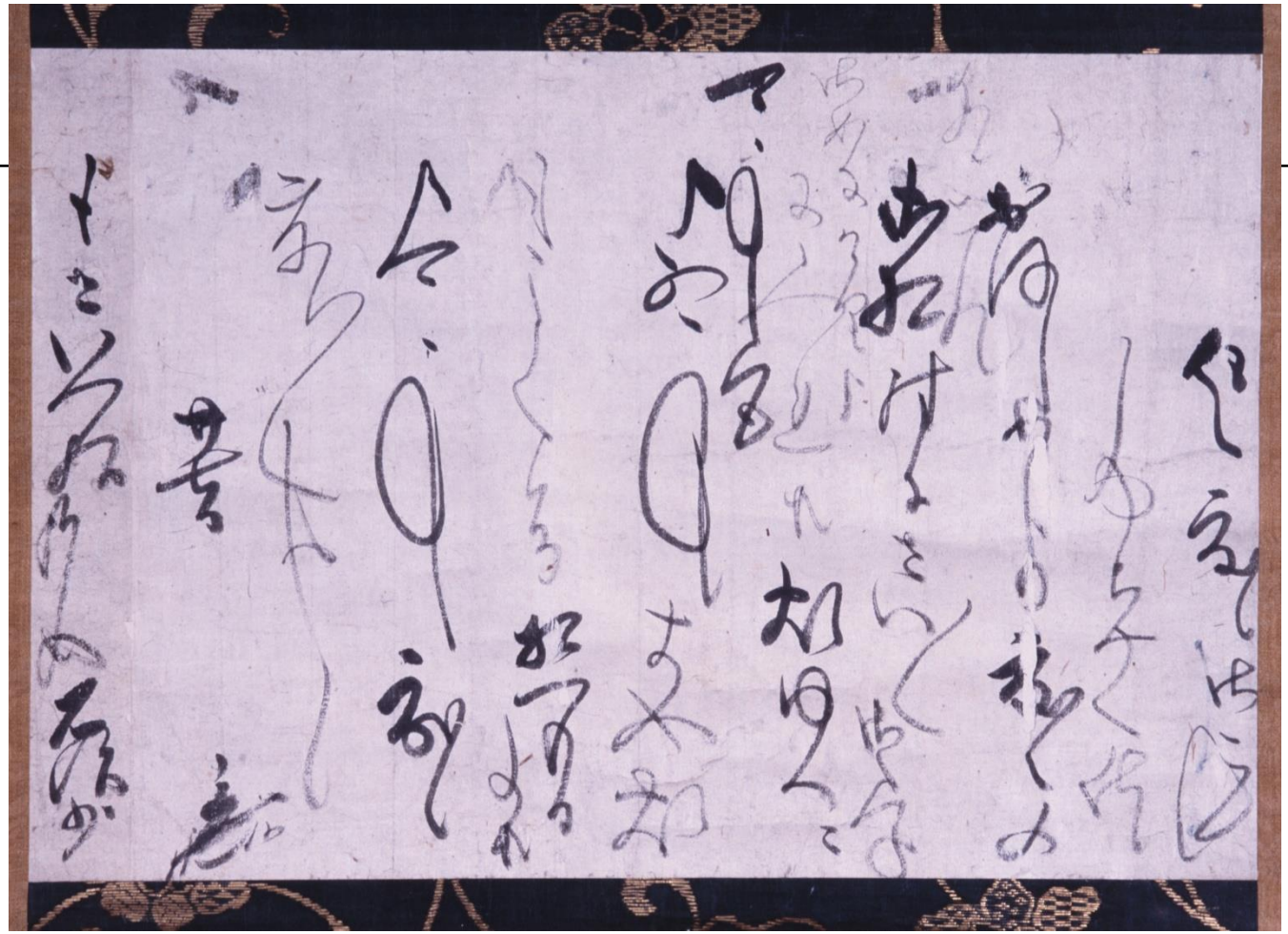
江州蒲生郡内今在家村検地帳(東近江市引接寺蔵／いんしょうじ)

秀吉が本格的な検地を開始するのは、天正11年(1582)～天正12年の近江の検地からである。現存する今在家村の検地帳には、石田三成が検地奉行として名を連ねている。三成は、いまだ佐吉と称した25歳であった。



◎太閤検地尺(鹿児島市尚古集成館蔵)
　島津領の検地に用いた三成署判の基準尺。
　(表)　1寸刻みの目盛りで1尺の長さを刻む。
　(裏)　この寸の6尺3寸＝1間　　5間×60間＝1反　　とする。太閤検地の基準尺としては現存唯一。

【三成が関わった太閤検地】
　・天正11～12(1583～82)　近江
　・天正17(1589)　美濃
　・天正18(1590)　奥羽
　・文禄2(1592)　　越後
　・文禄3(1593)　　島津領(薩摩・大隅・日向)　　佐竹領(常陸・磐城・下野)



石田三成書状(真田伊豆守信之宛／彦根市立図書館蔵)

三成が真田昌幸の長男信之に宛てた書状。類似する書状が「真田家文書」(真田宝物館臓)に13通伝来している。伏見城下で近くに屋敷を構えた2人が、親しく交際していたことを物語る史料である。その後、関ケ原合戦では敵味方に分かれる2人であるが、13通＋1通の書状は真田家の重宝として大切に保管されてきた。

■関ヶ原合戦と佐和山落城

・慶長 4 年(1599)3 月 10 日：石田三成、佐和山に引退(蟄居)

・慶長 5 年(1600)9 月 15 日：関ヶ原合戦

・同　　9 月 17 日：佐和山落城。三成の父正継(まさつぐ)、兄正澄(まさずみ)ら自刃。

・同　　9 月 26 日：徳川家康、家臣の内藤信正(のぶまさ)・石川康通(やすみち)・西郷正員(まさかず)に命じて佐和山を管理させる。また、城下の治安のため、彦坂光景(ひこさかみつかげ)を代官に命じる。

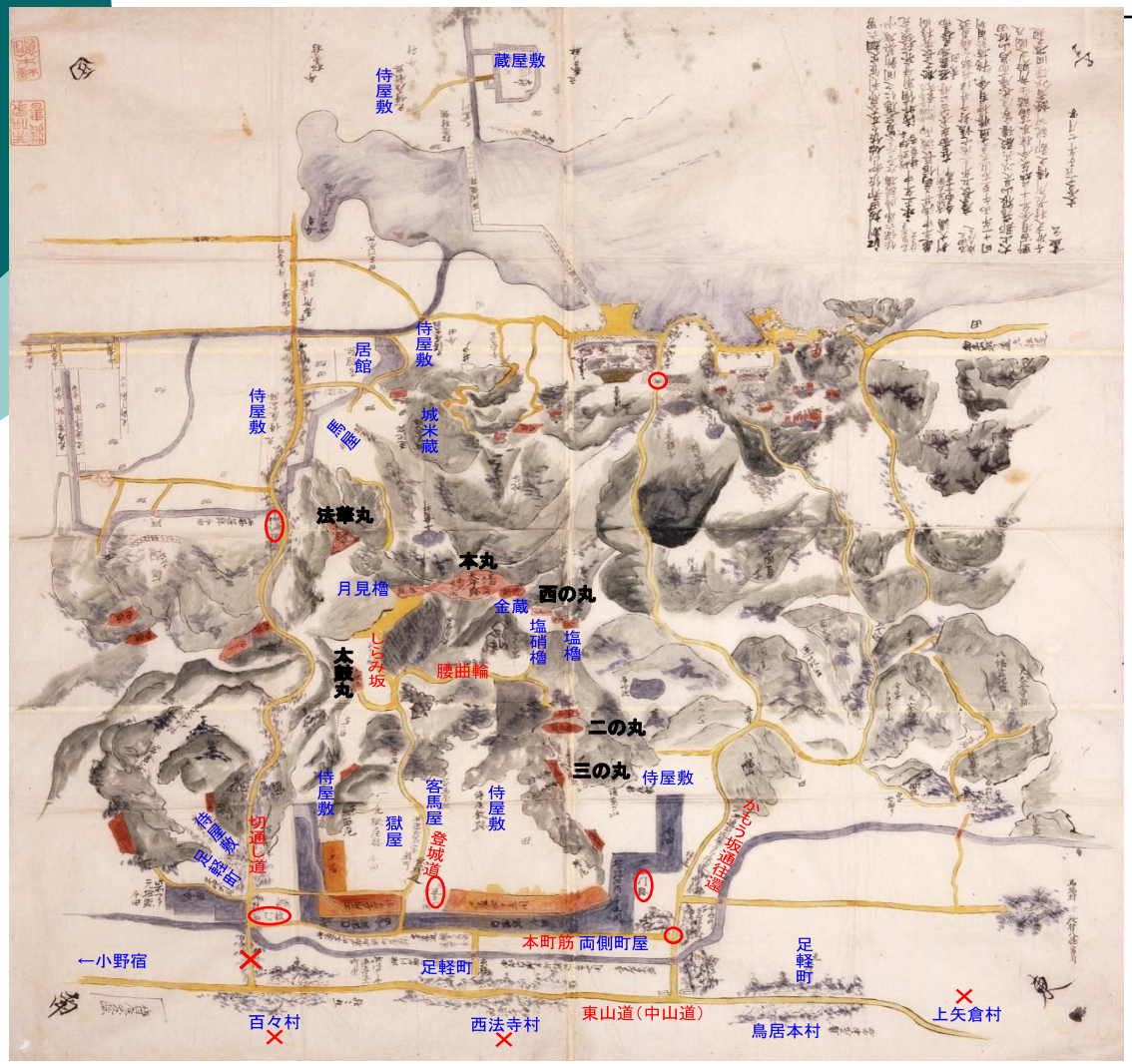
■井伊直政の佐和山入城

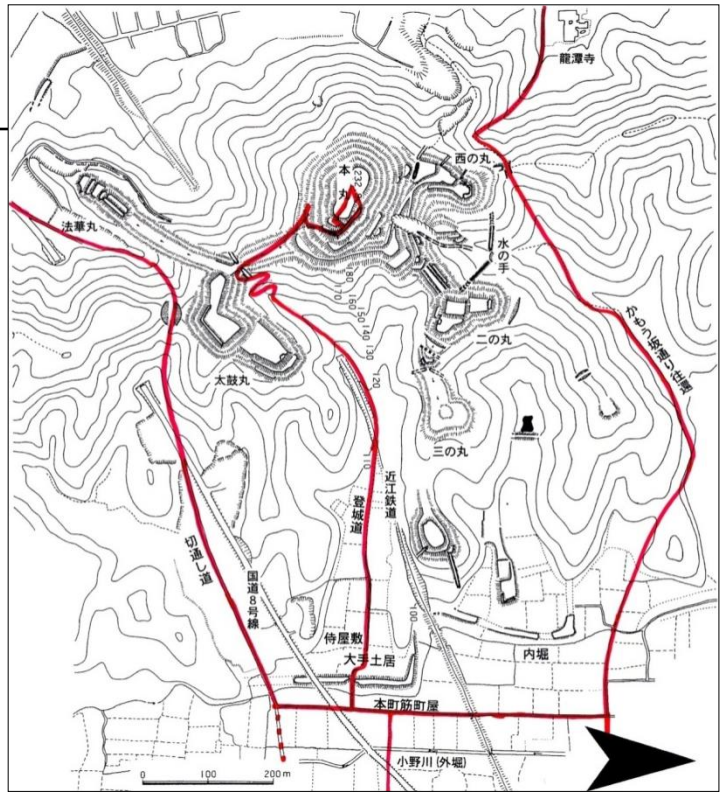
・慶長 6 年(1601)1 月　　：井伊直政、18 万石を得て佐和山城主となる。

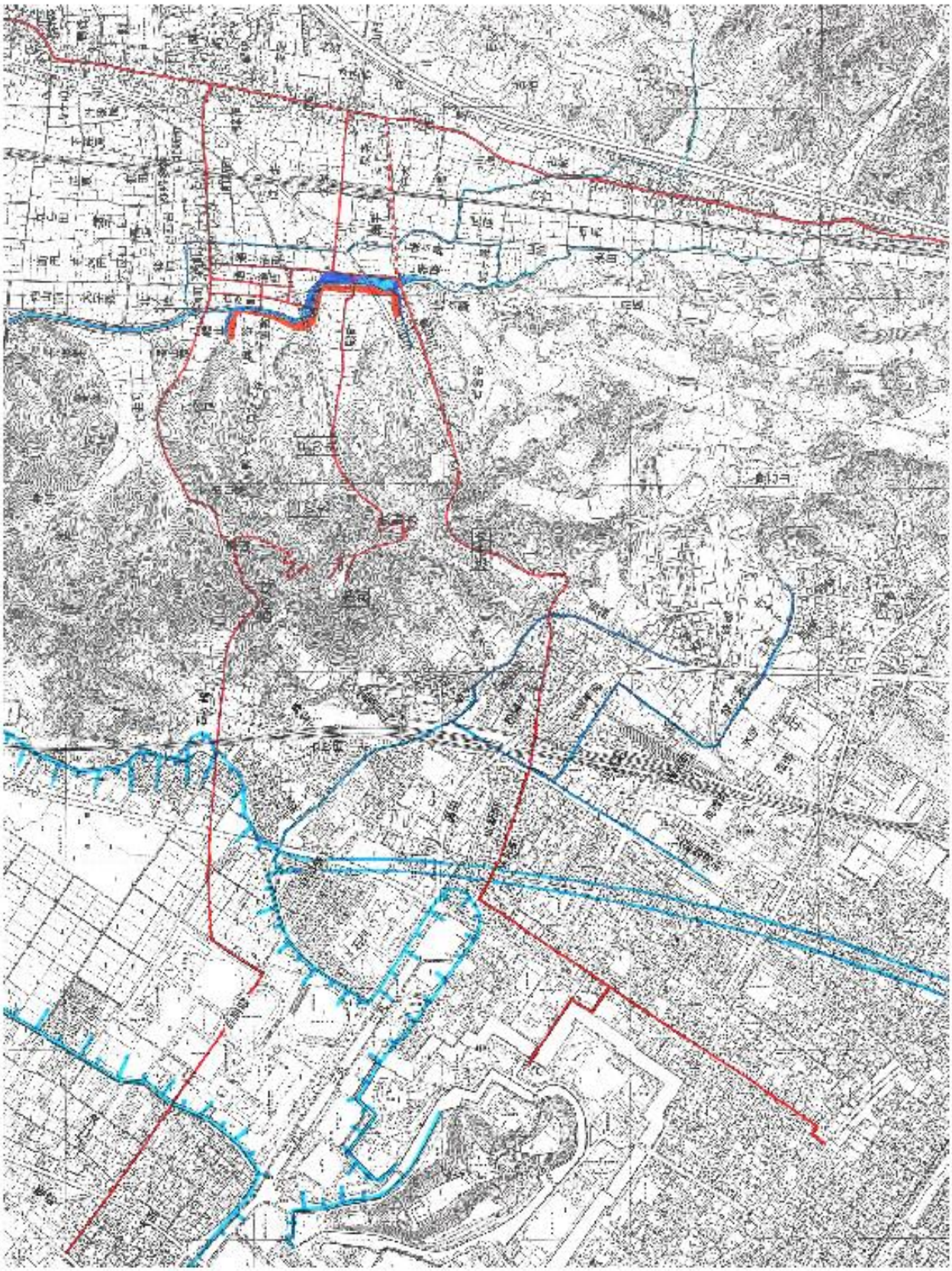
・慶長 6 年(1601)2 月 1 日　：井伊直政、関ヶ原合戦で受けた鉄砲傷が悪化し佐和山城内で死去。

・慶長 9 年(1604)7 月 1 日　：彦根城の築城に着手。この年の暮には、直政の嫡子直継(なおつぐ)、彦根城の鐘の丸へ移る。佐和山城廃城となる。

佐和山城


蔵屋敷
侍屋敷
居館
侍屋敷
侍屋敷
城米蔵
断崖
法華丸
本丸
月見櫓
西の丸
金蔵
塩硝櫓
塩櫓
しらみ坂
腰曲輪
太鼓丸
二の丸
三の丸
侍屋敷
侍屋敷
客馬屋
侍屋敷
獄屋
登城道
切通し道
近江鉄道
東海道
かたち坂通路
本町筋 両側町屋
足軽町
足軽町
←小野宿
百々村
西法寺村
東山道（中山道）
鳥居本村
上矢倉村


龍潭寺
西の丸
本丸
法華丸
水の手
二の丸
太鼓丸
三の丸
近江鉄道
登城道
切通し道
国道8号線
侍屋敷
大手土居
内堀
本町筋町屋
小野川（外堀）
0
100
200m



佐和山城跡周辺地図（小字入）